

## 馬螺が淵と河童

佐用町中三河

中三河、千種川に架かる小松原橋、その下流百メートル余りの所。急に落ち込んで、水は渦を巻いて流れ、底知れぬ無気味な青い淵。『馬螺が淵』と呼ぶ。

昔、洪水で神社の社がこの岸に流れついた。そして、それを拾って祭ったのが大森神社。

川上の千種、河呂村の氏神様だったらしく、

「返えせ。」

と言ってきた。

それで両者の者が、神様に伺いをたてたら、

「ここがよい。」

と神様がおっしゃったので、そのまま祭って今日に至ったという。

ところで、その昔、この馬螺が淵の下で、少し浅くなった所で、馬を入れて洗っていた男があった。

ある日、なぜか、馬が深みへ深みへと、後ずさりする。不思議に思って、よく見ると、十歳の子供くらいのおおきさの河童が、その馬のしっぽを持って、淵へ引っ張り込もうとしている。

驚いたその男、馬を力まかせに丘の方へと引っばった。

急に強い力で引っ張られ、あわてた河童、

思わず頭の皿の水がこぼれてしまった。

力の抜けた河童は、馬のしっぽでそのまま

丘の方へほうり上げられてしまった。

男は、その力の抜けた河童を家に連れ帰り、

頭の皿に水を入れては毎日毎日、牛馬の代わ

りに田畑を鋤かして使っていたそうさ。

丘が上がってしまった河童、毎日、馬螺が

淵の方を見て、川に帰りがたがった。

そしてある日主人に向かかって、

「どうか、もう、わたしを川に帰してください。

二度と悪さはしません。」

「それに、お礼にやけどの秘薬をお教えた

します。」



と、しみじみ、頼んだ。

毎日しよげかえっているので、かわいそう

にと思っていた主人、河童の頼みを聞いて、

許してやることにした。

川に戻った河童は、それ以後、決して人に

も馬にも、いたずらをしなくなったという。

そして、やけどの薬は大へんよく効き、そ

れはそれは大そう売れたそうさ。

明治の中頃まで、中三河村に阿曾某という

人がいて、やけどの薬を売っていたそうさ。

三土中学校のバレーコートあたりに家が

あった。

今も、この付近を皆は『河童屋敷』と呼ぶ。

(南光町昔むかし)